

第4学年 国語科（書写）学習指導案

平成26年11月6日（木）10:00~10:45 指導者 岡崎 晃治

1 単元名

文字の組み立て方

2 単元目標

- 自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択し、意欲をもって書こうとしている。
(関・意・態)
- 自己の課題に適した教材を選択できる。幅や高さ、形がどう変わっているか考えることができる。
(思考・判断)
- 左右・上下の組み立て方を理解し、組み立て方に気をつけて書くことができる。
(知識・理解・技能)
- ほかの文字や硬筆でも、自分の課題をもち、組み立て方に気をつけて書くことができる。
(書写の日常化)

3 指導上の立場

(1) 単元について

本単元は、「左右」の組み立て方の文字『林』を主教材として、「文字の組み立て方」を理解し、字形を整えて書くことをねらいとしている。これまで「文字の組み立て方」の学習は硬筆で行ってきたが、毛筆で書くことによって、「左右」「上下」の幅のゆずり合いや点画の変化を理解できるようにする。『林』で基本的な組み立て方を学習したあと、児童一人一人の習熟度や興味・関心によって、左右の組み立てからなる『秋』か、上下の組み立てからなる『星』を選ぶ「課題選択型」教材になっている。これまでの学習で学んだ知識や技能、学習方法などをもとにして児童自身が主体的に活動できる単元にしていきたい。単元後半では「左右」「上下」の組み立て方の文字について毛筆で学習したことを生かした硬筆学習を行い、日常化を図っていききたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童（16名）は、4年生になって、字形を整えるために「画と画の間に気をつけること」「点画のつき方とつく位置に気をつけること」「筆順に気をつけること」などを学習してきた。児童は、点画パーツなどを扱い意欲的にポイントを考えることができている。また、めあてを意識して練習に取り組んでいる。始筆や終筆、はねやはらいなどの毛筆の基本的な技能については個人差が大きい。

「左右の組み立て」「上下の組み立て」を意識して整えて書けているかを事前調査したところ、つぎのような実態であった。

「林」の「左右の組み立て」を意識し整った字が書けている。	「星」「上下の組み立て」を意識し整った字が書けている。
38%	25%

この結果から、字形を整えるポイントとして文字によって「左右」「上下」の幅の比率が異なることをしっかりとらえさせたい。また常に鉛筆の正しい持ち方、正しい姿勢についての指導をこころがけていきたい。

(3) 研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成～自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習～』に迫るために次のような工夫をしていきたい。

- 主体的に学び、日常化の図れる工夫
 - ・共通のめあてと既習学習をもとにした個人のめあてをもてるようにする。
 - ・毛筆学習の評価活動を硬筆学習の導入にする学習活動の工夫をする。
 - ・「左右」「上下」の文字の組み立て方の似ている漢字見つけを行う。
- 基礎・基本を身に付けさせる工夫
 - ・「左右」「上下」の幅の比率を変えた文字を提示し比較検討させる。
 - ・視覚的に分かりやすい掲示の工夫をする。
 - ・ワークシートの工夫。
- 自己の伸びを実感させる評価の工夫
 - ・評価カードを工夫し自己評価とペアグループによる相互評価を行う。
 - ・毛筆学習の評価活動の時間確保の工夫をする。

4 単元計画（全5時間）

- 第1・2時 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書く。
- 第3・4時 自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択して書く。
- 第5時 左右・上下の組み立て方に気をつけて硬筆で字形を整えて書く。（本時）

5 本時案（第5時）

目標	「左右」「上下」の幅の違いについて理解し、組み立て方に気をつけて書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 前時のまとめをする。 ① 試し書きとまとめ書きの自己評価と相互評価をする。 ② 硬筆でまとめ書きをする。	○「秋」「星」の拡大掲示物を用意し字形を整えるためのポイントを振り返りやすくする。 ○チェックポイントを入れた評価カードを用意し自己評価しやすくする。 ○ペアグループで相互評価しあうことでより自分の伸びが実感できるようにする。 ○友達のよくなったところを全体に紹介する時間を確保することで、個々の思いを全体で共有できるようにする。 ○ためし書きよりよくなっている箇所をしっかりと称揚し、書字活動に意欲がもてるようにする。 ○姿勢と鉛筆の持ち方を確認し、ワークシートに硬筆で「秋」「星」を丁寧にまとめ書きするように指導する。	
2 本時のめあてを知る。	○「係」「始」の2文字のへんをつくりの比率も「秋」と同じようにへんの幅をせまくすることで字形を整えられるのかを比較検討させることで、文字によって「左右」の幅が違うことに気づかせ、文字の組み立て方についてさらに学習していくことを伝える。	
文字の組み立て方に気をつけてこう筆で書こう		
3 どのような組み立てになっているのか考える。	○「泣」「説」の2文字は「係」「始」のどちらと「左右」の組み立て方が近いかを考えさせることで、つぎの2パターンになることに気づかせる。 ・左側の幅がせまい・・・「係」「泣」 ・左右の幅が同じくらい・・・「始」「説」 ○「安」「昔」「笑」「電」の4文字は「星」と同じように上下の高さを同じくらいにすればよいかを考えさせることで、つぎの2パターンになることに気づかせる。 ・上の部分が下の部分よりせまい・・・「安」「笑」 ・上下の部分が同じくらいの高さ・・・「昔」「電」 ○「湖」は、3つの部分の幅が同じくらいにすればよいことを確認する。 ○3つの部分からできている既習の文字を想起させ、他の文字でも3つの部分を同じくらいの高さで書くことに気づかせる。 ・既習の文字・・・「街」「側」 ○「日」「言」「売」「十」の4文字を提示し、2文字を組み合わせると「読」「早」になることに気づかせる。 ○「読」「早」の組み立て方を考えさせ、幅や高さの違いに気をつけて書けるようにする。 ○「田」「糸」「立」「木」「冬」「直」「心」「里」の8枚のカードを用意し、2文字を組み合わせさせて漢字づくりをさせ、幅や高さを変えると字形が整うことに気づかせる。 ○つぎのような掲示物を作り、どの組み立て方に当てはめればよいかを考えやすくする。 ・ ・組み合わせでできる漢字・・・「終」「植」「思」「童」	○文字の組み立て方が理解できたか。（知・理）
4 本時のまとめをする。	○本時の学習を振り返り、組み立て方に気をつけて書くことが字形を整えることにつながることを再確認する。 ○ワークシートを用意し、本時に扱った文字について組み立て方に気をつけて書けるようにする。 ○鉛筆の持ち方と姿勢を確認する。 ○字形を整えて丁寧に書けている児童をしっかりと称揚し、書字活動により意欲がもてるようにする。 ○3年生で学習した漢字表の中から、本時に学習したことと関連している文字を見つけてワークシートに書かせることで日常の書字活動に生かせるようにする。	○組み立て方に気をつけて字を整えて書けたか。（技）

 共通のめあて

「・」指導のポイントなど